

# Yumeken

夢けんせつ  
DREAM CONSTRUCTORS

# 春

2009 Vol.592

- ◆特集○話題の焦点  
企業の社会貢献活動が目指すもの
- ◆夢インタビュー  
時を経て響き続けるヴァイオリンに夢を託して
- ◆行ってみよう  
城下町彦根散策
- ◆おじゃまします  
株式会社 増田工務店



# 企業の社会貢献活動が目指すもの

最近、「フィランソपी（社会貢献活動）」ということばをよく耳にします。フィランソピーの語源となったのは、ギリシア語のフィロス（愛）とアンスローポス（人間愛）で、「博愛」「慈善」「助け合いの精神」などという意味で用いられてきました。今、企業はどのような目的で社会貢献活動に取り組むのか、またどのような効果が期待できるのか、滋賀県内の動きについてレポートしました。



企業とNPOの対話のタベ



企業・団体の社会貢献活動トップセミナー



社会貢献担当者を対象にした会員研修



ガス科学館を見学した会員研修

淡海フィランソピーネット

[http://www.shigashakyo.jp/oumi\\_p\\_net/index.html](http://www.shigashakyo.jp/oumi_p_net/index.html)

災害時を想定した炊き出し訓練



## 湖国 街かどウォッチング

新しく便利になった街や施設をレポートするコーナーです。

### 滋賀県警本部庁舎

「21世紀滋賀の安全・安心のシンボル」として、大津市打出浜に総工費約三億四千万円（庁舎本体）、工期約三年を費やして建設されていた「滋賀県警察本部庁舎」が完成し、二月五日に落成式が開催されました。

新庁舎は、地上十階、地下二階建てで、塔を含めた高さは約五九メートル。地震のエネルギーを吸収する免震構造と、屋上に設置されたヘリポートの重量を利用した制震構造を組み合わせたことで、地震の強い揺れを抑えて、庁舎の安全性が確保できるようになっています。

さらに、電力の二回線引き込みや、通信回線の二ルート引き込みのほか、集中熱源方式と個別空調方式による空調の二重化や非常用電源対応などによって、大地震後も庁舎全体の機能を保ち、災害対策の中核的な役割を担えるよう、危機管理機能が強化されています。

迅速な初動対応を実現するためにGPSを使ったカーロケータシステムを導入した通信指令システムや、安全で円滑な道路交通確保のための高度な交通管制システムも導入されています。

さらに、環境面やアメニティ面にもさまざまな配慮がなされていることも大きな特徴です。

東側正面の壁面には、太陽光発電パネルが採用されているほか、自然換気が可能なダブルスキーンカーテンウォール、廃熱を再利用するコジエネレーション設備、アンダーフロア空調による最適空調、自然光を利用した吹き抜けのatriumなどを採用して、省エネルギー化が図られています。

琵琶湖の湖面をイメージしてデザインされた外観、景観との調和にも配慮して、敷地周辺



大地震後も機能が保てるよう耐震構造や危機管理機能が強化されている。

には緑化が施されています。また、二階建ての旧琵琶湖研究所北棟が、新庁舎別棟として再利用されています。

場所  
大津市打出浜1番10号

## CONTENTS

湖国街かどウォッチング	2
滋賀県警本部庁舎	2
特集・話題の焦点	3
企業の社会貢献活動が目指すもの	3
夢インタビュー	6
時を経て響き続ける ヴァイオリンに夢を託して 細野正洋さん	6
ビジネス最前線	7
琵琶湖汽船株式会社 クルーズ船「megumi」	7
行ってみよう	8
城下町彦根散策 「花しょうぶ通りから七曲がりへ」 おじゃまします	8
株式会社 増田工務店	10
近江建築探訪	12
ウォーターハウス記念館	12
「仕事の達人・遊びの達人」…… 夢は4WD電気自動車による 南極点走破 松野和則 バズル&クイズ	13
見れば納得 見学会報告…… フジテック株式会社	14
元気いただきます……	16
近江うまいもの紀行 湖国の祭りあれこれ 読者の声	18
表紙写真 「幾何学模様」石田 清司 「春の日」下山 博 「残月」寺坂 美徳 「源流から」本田 義則 「クレーン作業」長 吉秀	19

### 協働による社会貢献活動の推進に取り組む 「淡海フィランソピーネット」

平成二年に日本経済団体連合会に社会貢献活動推進委員会が組織され、企業メセナ協議会が発足。この頃から企業の社会貢献活動が目されるようになりました。そして阪神淡路大震災が起こった平成七年は、被災地で多くの市民や企業がボランティア活動を行ったことから、ボランティア元年と呼ばれるようになりました。

その翌年、平成八年三月に十九の企業や団体が参加して、企業の社会貢献活動について考えるネットワーク「淡海フィランソピーネット」が設立されました。

設立の目的は、県内企業や関係団体の連携を図り、社会貢献活動の啓発や普及、調査研究、交流などを行い、地域にとってより魅力的な活動の推進を図るというものです。現在、百十七の企業・団体と二五名の個人会員が参加して、情報交換や研修会などで得た知識や情報により各社が社会貢献活動を行ったり、ネットボルキャブプリサイクル事業や災害支援など、ネットワークを活かした協働による活動を行っています。

### 得意とする「こと」、 本業を活かした社会貢献を

社会貢献と言えば寄付というイメージがありました。その内容は時代とともに多様化してきています。「今は個々の企業が得意とすることを活かして、できることをやってみよう」という考え方が定着してきました。会社周辺の清掃など地域の美化活動に取り組む企業が増えています。例えば化粧品のメーカーなら、高齢者の施設でお年寄りに化粧を

して若返りしてもらおうという活動をされています」と、滋賀県社会福祉協議会主任主事の高橋宏和さん。

最近特に環境保全を意識した活動への関心が高まっていて、地域の子どもたちを対象にした環境学習や出前授業に取り組むケースも多いそうです。「厳しい経済情勢が続いていますが、社会貢献への意識がトーンダウンしている訳ではない」と高橋さん。「CO<sub>2</sub>削減に取り組むのは企業存続のため。地域社会と共存できないければ、事業の継続・発展はない」と考えが広がっている「1」指摘します。

さらに、社会全体の価値観の変化も、社会貢献に対する関心を高めています。業績を上げることだけに専念してきた企業人の中から、少しずつ世の中のこと、地域社会をよくすることに目を向けてみようという動きが起り始めました。私たちが求める豊かさの「心」から「心」へと変わってきています。企業の社会貢献活動に参加したことがきっかけとなって、個人的にボランティア活動への関心を高める人も出てくるかもしれません。国民生活白書でも、ボランティアへの関心が高まっていることが報告されています。

淡海フラインスローパーネットでは、NPOとの交流・連携の促進や、ネットポトルキャップのリサイクル事業、滋賀県災害ボランティア活動連絡会への参画などにも取り組んでいます。企業と行政・NPO、市民の協働により、さらに効果的な活動を展開していくことが可能です。

近江商人の家訓として有名な「三方よし」は、「売の手よし、買い手よし、世間よし」という、商いをしながら社会のために貢献していくことの大切さを説いた経営理念です。このような厳しい時代にこそ「三方よし」の教えに立ち返り、地域社会とともに発展する企業経営を目指すことが求められているのではないのでしょうか。

事例1

ゆば作りのノウハウを活かして障害者作業所と新商品を開発

株式会社比叡ゆば本舗 ゆば八

「日本一のゆば屋」をめざして、社会貢献事業にも熱心に取り組まれた夫である先代社長が急逝された後、社長業を引き継いだ八木幸子さんは、その志を受け継いで、「温故知新」創意工夫「共存共栄」を社是に、新商品開発やゆばの普及に努めるだけでなく、障害者の雇用機会の創出などにも積極的に取り組んでこられました。

平成十四年に長浜市の休耕地を借り上げて建設された工場では、市内の障害者グループに袋詰めなどの作業を委託しています。

その後、別の作業所から「他と差別化できる商品を作れないか」と相談を受けた八木さん。ゆばならではのきめの細かいおからを混ぜ込み、水の代わりに豆乳を使っただんごの開発に取り組みました。水でこねるより難しく、一定の品質で製造できるようにするまで、二年余りの試行錯誤を繰り返して、ようやく製品化にこぎつけた「ゆば屋の豆乳おからうどん」。もちもちとした食感、とろっとした喉越しで、介護食や離乳食としても評判が高く、平成十六年度農林水産省総

合食料局長賞を受賞しました。

そのほかにも、豆乳とおからを練り込んだパンの開発など、本業で培った経験や技術、アイデアを活かしたさまざまな社会貢献活動を行っています。

製造工程を見学できるようにしたのも、伝統的な日本の食文化のよいところや、手間ひまかけて作られる食への大切さを多くの人々に伝えたいという思いから。地元の小中学校の課外授業や修学旅行生を積極的に受け入れていきます。

「福祉と産業がタイアップすることで、障害のある方の自立が可能になります。農業と産業を結びつけることで雇用が生まれ、地域が元気になります」と言う八木さん。休耕地を大豆畑にして、オリジナルブランド大豆のゆばを売り出すという計画をあたためています。

売り手にも、買い手にも、そして世間にも喜んでもらえる経営で、日本一をめざすという同社の取り組みは、これからの裾野を広げてゆくことでしょう。



八木さんが開発に協力した「豆乳おからうどん」と「豆乳おからかりんとう」



本業のノウハウで地域を元気にしたいと語る八木さん

事例2

清掃活動や交通安全、環境学習などを通じて地域に貢献

株式会社 大山建設

高島市にある大山建設では、社員が参加してさまざまな社会貢献活動を行っています。滋賀県が推進する「淡海エコフオスター制度」に登録、毎月一回、第一曜日に会社の前を走る「県道新旭高島線」の約五〇〇メートルを社員十名前後で清掃しています。地域の有志が取り組む「六六

号ハイパス用地花いっぱい運動」にも参加、年二回、花の植え替えなどを行っています。

春秋の交通安全運動の期間中、会社の近くの二カ所の交差点で、毎朝始業前に社員が交替で立ち番を行い、シートベルト着用などを訴えています。「社内の安全委員会の中で発案され、自

発的に始まったもの」と、総務部長の堀田勝さん。また同社では、建設業の環境ネットワークCESAに参加して、発注者、NPO、地域住民とともにアクションプログラムを実施してきました。具体的には、地域の小学校の生徒を対象とした環境学習プログラムを実施しています。

事例3

地域の小学校で出前授業、建設の仕事を紹介

株式会社 大野組

専務取締役の大野政順さんが、十五年ほど前から小学校で人権学習も兼ねた社会科の授業を行ったり、中学生の職場体験を受け入れたりしてきました。当初授業では、学校の近くの現場に児童を連れて行って、工事の様子や建設機械を見せたりしていました。

今年一月に甲良東小学校で行った授業では、近くに現場がなかったため、まず教室で建設業の仕事について説明を行い、その後校庭の砂場でスコップやツルハン、カナテコなどいろいろな道具を実際に使って砂を掘ったりする体験授業を行い

ました。カナテコで軽トラを動かして見せると、「やってみたい」とみんなが興味を示してくれました」と大野さん。

建設現場では、いろんな職種の人に関わってものづくりが行われていること、世の中には一人ひとり持ち場があり、自分の居場所・役割があつて、だれ一人として不必要な人間はいないといった話をして、どんなことにも失敗を恐れず挑戦してほしい、やってみようと思う気持ちが大切であるというメッセージを、子どもたちに伝えました。



砂場で道具を使った体験授業を行った大野さん。



CESAアクションプログラムで、西山川2号えん堤工事を見学する東井小学校のみなさん



工事について説明する大山光善副社長

淡海エコフオスター制度に登録、毎月1回清掃活動を行っています

# 琵琶湖汽船株式会社 クルーズ船「megumi」



琵琶湖汽船株式会社  
大津市浜大津5丁目1番1号  
TEL.077-522-4115  
http://www.biwakokisen.co.jp/

本社屋

琵琶湖汽船株式会社は、大津市に本社のある琵琶湖汽船が、一九九〇年に誕生した「ピアンカ」以来、約二〇年ぶりと「なる新船「megumi」を、今年一月に就航させました。

日本で初めての軽合金製トリマラン型クルーズ船で、流体力学を利用した「トリマラン」と呼ばれる三つの胴体からなる船体設計の採用によって、高速化、低燃費化を実現しています。

また、太陽光と風力による発電ユニットを船体前部に設け、使用済み灯油から油などの植物性廃食油を再資源化したバイオディーゼル燃料と軽油を混合した燃料で運航します。

二階のデッキから三六〇度の眺望が楽しめる「景観性」と、一階デッキから湖面までの距離が近く、より琵琶湖を身近に感じられる「親水性」を重視していることも特徴の一つです。

後部に広いデッキを設けて、デジタル顕微鏡や採水装置、透視度センサー、酸素測定器などを搭載したことで、「環境啓発船」として環境学習にも対応できるようになっています。

現在、琵琶湖の自然体験や環境学習で実績のあるオーパルオプテックス株式会社とジョイントしてカリキュラムを作成中で、指導員の派遣も依頼する予定です。

ラウンジのテーブルレイアウトを自由に変更できるので、ウェディングなどのパーティーや、セミナーなどさまざまな用途に利用できるよう、チャーターしやすい手頃な大きさも魅力の一つになっています。湖南から湖北まで二九カ所の港に寄港できるので、オリジナルのクルージングを計画することもできます。

現在はチャータークルーズが中心ですが、マスコミで紹介されてからは反響が大きく、個人で



クルーズ船「megumi」  
全長33.61m、幅8メートル、総トン数122トン、最高速度16ノット、旅客定員200人（1階120人、2階80人）

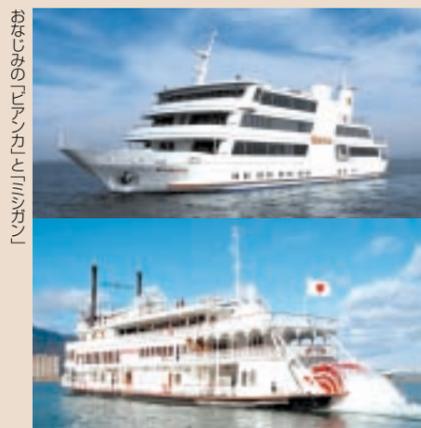


（後部）  
高速化、低燃費化を実現した三胴の船体設計

環境学習などにも活用できる後部デッキ（イメージ）



イスとテーブルのレイアウト変更が可能な内部



おなじみの「ピアンカ」型クルーズ船

## テーマは親水性とエコロジー 環境学習にも活用できる 中型クルーズ船

乗船したいという問い合わせも多いことから、今後は個人で参加できるクルーズを企画していく予定です。

大型クルーズ船ミシガンとピアンカのほか、五隻の中型クルーズ船を所有する同社では、食事やショーを楽しむミシガンクルーズのほか、海津大崎の桜クルーズや花火クルーズ、沖島と竹生島、長浜に立ち寄る「ぐるっとびわ湖一周クルーズ」など、さまざまなクルーズを企画しています。

「megumi」という船名は「母なる湖・琵琶湖の恵みに感謝して事業活動を行う」という同社の企業理念に基づいて名付けられました。琵琶湖の魅力や滋養の素晴らしさだけでなく、豊かな自然を守る大切さを感じるクルーズが体験できるのではないのでしょうか。



イスとテーブルのレイアウト変更が可能な内部

# 夢 Interview

## 時を経て響き続ける ヴァイオリンに夢を託して

近江八幡市の静かな住宅街にある工房ウォルナット。西洋アンティークの椅子やテーブルが置かれた居間に、細野さんが製作したヴァイオリンが飾られています。

早期退職して始めたアンティークショップ、そしてヴァイオリンとの出会い、ものづくりの楽しさについてお話をうかがいました。



居間に飾られた細野さんの作品

奥様のために製作したオルガン



●ヴァイオリンづくりを始められる前に、西洋アンティークとの出会いがあったのですか。

仕事でアメリカに住んでいた頃、西洋アンティークの魅力を知って、休日になるとアンティーク屋めぐりをしていました。欧米には親から子へ何代も家具を受け継いで、壊れたら修理して大切に使う伝統があります。長く使えるようにと、見えないうところも手を抜かずしっかり作られています。

●ヴァイオリン製作を始められたきっかけは？

N響のヴィオラ奏者の知人に誘われて、ヴァイオリンの聖地と言われるイタリアのクレモナに工房を訪ねました。輸入したアンティーク家具を自分で修理して販売するという仕事をしていましたので、自分にも作れるのではないかと、二本分の材料を買って帰国しました。

●まったくの経験がないところからヴァイオリン作りを始められたのですか。

詳しく作り方を書いた日本語の本はなかったのですが、英語の資料を読んだり、ネットで情報を検索したりして、独学で試行錯誤しながらも、とにかく第一号を完成させました。それから八九年間に三十三本のチェロやヴァイオリンが誕生しました。

●すべての工程をお一人で作っていかれるのですか。

●製作過程でいちばん苦労されるのはどんなことですか。

苦勞と思つたことは一度もないんです。ただ、す

ごくたくさん工程があつて、どの工程にも繊細な気遣いが必要です。

好きで作り始めたので売ることには考えていなかったのですが、評価してもらつたためにプロの方に弾いてもらつたりしています。やはり後で製作したものほど、良くなつていると言われます。気に入つて購入してくださる方もいて、それがまた励みになっています。

●木工の心得があるとはいへ、ヴァイオリンのよ

うな繊細な楽器を、プロも認めるほどのレベルで作れるようになるのは並大抵ではないと思います。木曾の小学校で、ヴァイオリンづくりを授業で取り入れているところがあります。四年生から三年間かかつて各々自分のヴァイオリンを製作します。ナイフの使い方から教えているのですが、根気よくやれば小学生でも作れるんです。

●今後の目標、夢について聞かせていただけますか。

目指すのは将来性のある音色です。有名なストライヴアリウスは時を経ることで、より美しい音色を奏でるようになっていきました。百年、二百年後、自分が作ったヴァイオリンがどこかで美しい音を響かせている、そんな夢があるのがヴァイオリン作りの魅力だと思つています。



自作のチェロを演奏する細野さん



小さい鉋などヴァイオリン製作に使う道具も手づくりされたもの

## 細野 正洋さん

○はその まさひろ  
ヴァイオリン製作  
工房ウォルナット代表

1942年生まれ  
1994年 IT企業を早期退職  
1995年 工房ウォルナットを自宅で立ち上げ  
アンティーク家具の扱いから、ヴァイオリン製作に移行



## ひこね イベント情報

### 井伊直弼と開国150年祭 ~22年3月まで

日米修好通商条約締結150年を記念して、諸外国に門戸を開いた老井伊直弼をテーマとするイベントが、彦根城と市内全域で平成22年3月まで開催されています。彦根城内では開国記念館特別展のほか、重要文化財の佐和口多聞櫓が特別公開されています。

- 問い合わせ 実行委員会 0749-30-6141
- 公式サイト <http://www.hikone-150th.jp/>

### 彦根城 桜まつり 4月1日~20日まで

夜桜のライトアップ  
4月1日~20日  
(開花状況によって変動します)  
日没から21:00時まで。彦根城周辺は約1200本の桜で彩られます。

- 入山料 600円(夜間入場不可)
- 問い合わせ 0749-22-2742

### ご城下にぎわい市 3月20日~5月6日まで

3月20日~5月6日 9:00~17:00  
彦根城内にある金亀児童公園の特設テントで、和菓子や湖魚の佃煮、地酒など彦根の特産品のほか、人気のひこにゃんグッズなどが販売されます。

- 問い合わせ (社)彦根観光協会 0749-23-0001

### 彦根城お堀めぐり

復元された井伊家ゆかりの御好屋形船に乗って、お堀から眺める彦根城はまた格別です。玄宮園前の船着場から1時間ごとに航しています。

- 乗船時間 約50分 大人1200円 小学生以下600円
- 問い合わせ NPO法人小江戸彦根 080-1461-4123

\*彦根の観光情報は彦根観光協会のホームページに詳しく紹介されています。  
<http://www.hikoneshi.com/>

### その他お問い合わせ一覧

- ボランティアガイドの申し込み窓口  
彦根市観光案内所 0749-22-2954
- 「花しょうぶ通り商店街」  
<http://www.packet.ne.jp/hanasyoubu-st/>
- ひこね街の駅 寺子屋力石(Cafe Ruwam)  
0749-27-2810
- ひこね街の駅 戦国丸  
0749-27-5058



老舗旅館、大正期の洋館など、どこか懐かしい雰囲気の花しょうぶ通り商店街

旧明治銀行の建物が ある



彦根駅前に立つ銅像は彦根藩初代藩主井伊直政公



Leisure Spot ● SHIGA

行ってみよう

## 城下町彦根散策

# 花しょうぶ通りから七曲がりへ

四季を通じて観光客でにぎわう城下町彦根。街のあざむきに残る古い街並が、しっとりとした風情で訪れる人を迎えてくれます。今回は、ボランティアガイドさんの案内で、彦根駅から花しょうぶ通りを通って七曲がりまで歩いてみました。

### 戦時防衛都市「彦根」

彦根城を築いたのは二代目の井伊直継公。豊臣家を始めとする西国のおさえのため、城と城下町には戦時を想定して、「戦時防衛都市」としてのさまざまな機能が盛り込まれています。たとえば、城下町にはりめくろされた道はいたるところに「ドンキキ」と呼ばれる袋小路や、まっすぐではなく一度曲がってつながっている「ウイチガイ」が設けられ、敵が攻め込みにくいようになっていきます。

### ほっこり懐かしい花しょうぶ通り

駅前にある観光案内所から約十五分ほど歩くと「久左の辻」という四つ辻があります。角に建つ赤い屋根の古めかしい建物は、大正七年に建てられた旧明治銀行彦根支店、現在は滋賀中央信用金庫銀座支店になっています。

この辻を向かって右に曲がると銀座商店街、左に曲がると「花しょうぶ通り商店街」になります。明治に創業した老舗の旅館や趣屋さん、蝋燭屋さんが現在も暖簾を守っています。大正時代に建築された旧川原町郵便局や、パリックと櫛のオブジェが建物を飾る理髪店など、トトロな洋館も街並に溶け込んでいます。ギャラリーを兼ねたカフェ「Ruwam」は、散策の途中で立ち寄って自然素材のみで手作りのスイーツというなん国のお茶でもほっこり一休みするのにお勧めのスポットです。

そして最近注目を集めるスポット「ひこね街の駅 戦国丸」は、昔の銭湯をそのまま利用した新しいスポット。佐和山城主・石田三成や重臣の島左近のキャラクター「しまさこにゃん」と「いしだみつにゃん」のグッズのほか、戦国グッズの販売やイベントを開催しています。手作り甲冑教室も開かれています。

花しょうぶ通りと芹川の間に広がる地域「袋町」は、細い路地の奥が袋小路になっていて、昔は遊郭が集まった大歓楽街でした。舟橋聖一の小説「花の生涯」にも幕末の頃の袋町の様子が描かれています。その名残を伝える紅殻格子の建物が、細い路地の両側にひっそりと建ち並んでいます。

## 花しょうぶ祭り・アートフェスタ勝負市

6月13日(土)・14日(日)

毎年、菖蒲の花の咲く6月に商店街で行われるイベント。湖東焼などの陶芸のほか、さまざまなアーティストのブースが並び、通りがにぎわいます。



話題のスポット「ひこね街の駅 戦国丸」

「ナチュラルスイーツ&旅のお茶 Ruwam」のある「ひこね街の駅 寺子屋力石」

ひこにゃんが迎えてくれる観光案内所



彦根ボランティアガイド協会の西村元愛さんに案内していただきました。

中二階、袖壁の古い町家が数多く残されている七曲がり



七曲がりを抜けて、駅へ戻るために歩いた芹川沿いには、桜やケヤキの並木が続いています。彦根の町は城が築かれるまでは低湿地帯でしたが、芹川を改修して町の中心部へ向かっていった流れを、当時支流であった現在の芹川につけ変える大土木工事が行われました。土手の強度を増すために植えられたケヤキ並木が、今では市民の散策路として親しまれています。

七曲がりを抜けて、駅へ戻るために歩いた芹川沿いには、桜やケヤキの並木が続いています。彦根の町は城が築かれるまでは低湿地帯でしたが、芹川を改修して町の中心部へ向かっていった流れを、当時支流であった現在の芹川につけ変える大土木工事が行われました。土手の強度を増すために植えられたケヤキ並木が、今では市民の散策路として親しまれています。

### 敵の侵入を妨げるジグザグの道「七曲がり」

芹川の南側にある「七曲がり」には、ここにはたくさんのお堀が広がっています。武器や武器の製造に携わっていた塗師、指物師、鋳金師などが、太平の世となった江戸時代中期に仏壇製造に転向したことが始まりだと言われています。

その名の通り、道が左右にジグザクと曲がっていますが、これも敵の侵入を阻止するためのものでした。

中二階、袖壁の古い町家が数多く残っているほか、つばな袖つたつのある酒屋や醤油屋などもあり、城の周辺だけでなく広い範囲に町が広がっていたことを物語っています。この七曲りは中山道の高宮宿から城下へと続く脇街道で、城下を通って鳥居本宿につながっています。

桜やケヤキの並木が続く 芹川



彦根城お堀めぐり



# 創業者の志を受け継ぎ、豊かな地域社会の実現を目指す

株式会社 増田工務店

大津市晴嵐

代表取締役社長

増田喜代司



本社



倉庫事業部と  
本社設計室



創業者増田鋭一氏(昭和24年に撮影)



昭和27年に行われた引屋工事

**建設から物流までを担い  
地元企業とともに発展**

昭和二十四年創業の増田工務店。増田喜代司現社長の祖父に当たる増田鋭一氏が、七名の有志とともに増田組を立ち上げ、戦後の混乱の中で復興を担う建設・請負業をスタートしました。

昭和二十九年に建設業許可を取得し、その後地元に進出してきた大手企業などから建設だけでなく、修理や増改築、設備保全や倉庫管理、構内の搬送作業などさまざまな仕事を引き受けるようになったことで大きく成長しました。

そこから物流部門が生まれ、草津市に倉庫事業部を開設して、自社倉庫で製品や原材料の保管・加工を行ったり、配送まで手がけるようになりました。

工場や事業所などの建設から県の土木工事、一般住宅まで幅広い分野で技術を培い、平成三年には伝統的な木造在来工法で、大津市にある幻住庵の再建工事を手がけています。

員自身にとっても大きな財産となる知識や資格を身につけてほしいという思いが込められています。

創立五〇周年に当たる平成十一年に新しく制作された同社のマークは、大地の緑と湖のブルーで、人、自然、社会が共生するまちの姿がデザインされたもの。地域とともに発展

**研修や資格取得を奨励  
優れた人材を強みに  
体質強化を図る**

「工場の改修工事については、今はほとんどラインを止めずに行います。だから、何よりスピードが重視されます」と増田社長。工場のラインや設備についてよく理解している業者でない、スムーズに仕事を進めることができないうため、長年、取引のある同社への信頼は厚く、特に現場をよく知る監督は何かとお客様から頼りにされています。

現在の厳しい経済情勢の中で、ワークシェアリングなども視野に入れながら、生き残りを図っていくためには、「どつすれば今ある人材を最大限に活かせるかを考えていくことがポイントになる」と指摘する増田社長。

具体的には、休日を増やすのではなく、商工会議所や関係団体などが主催する研修会や勉強会をできるだけ受講させて、個人のスキルアップを図っていくというもので、経営管理や安全衛生など、資格取得を目指す社員を積極的にフォローしています。経験や資格を持つ社員が企業の強みになるだけでなく、社

し、豊かな未来を目指したいという同社の理念を表しています。

創業当時から一貫して地域密着型の業務を展開してきた同社、時代は変わっても、初代社長が誠実な人柄と確かな実績で会社の礎を築き、苦難の時代を乗り越えてきた創業の志は変わらず受け継がれています。



公共工事の施工例  
伝統的な工法で再建された幻住庵



増田喜代司代表取締役社長



オフィス・事業所などの施工例



歩道工事の施工例

## ウォーターハウス記念館

●近江八幡市池田町

### 甦った初期ウォーリス建築

近江商人たちが残した古い商家や白壁の土蔵が建ち並び、水郷に船が行き交う近江八幡。このまちを「世界の中心」と呼んで愛したのは、明治・大正昭和を通じてキリスト教の伝道に尽力し、建築家として数多くの作品を残したウィリアム・メルルウォーリスでした。

JR近江八幡駅から北へ伸びる大通りを歩くこと約10分。白亜の建物が見え始める「池田町洋風住宅街」は、ウォーリスの初期作品がいまも残る一角。かつてここにあったウォーリスの自邸こそ失われましたが、同志たちのために設計された三軒の洋館が現存しています。

なかでも今年月に改修作業が完了し、往時の面影を見事に取り戻したのが「ウォーターハウス記念館」。大正二年（一九一三年）に建てられた木造モルタル三階建ての住宅で、アメリカの伝統的な建築様式である「コロンビアスタイル」が特徴です。その呼称は建築当初の住人であるポール・B・ウォーターハウスにちな



建築当初の池田町洋風住宅街。手前から吉田邸、ウォーターハウス邸、ウォーリス邸（現存せず）、その奥にダブルハウスがある。

んだもの。早稲田大学の英語講師として来日していた彼が、ウォーリスに出会って共鳴。滋賀で布教活動に携わっていた間、家族の住まいとして使われていたが、次第に老朽化が目立つようになり、二〇〇八年六月、財団近江兄弟社によって耐震補強を加えた全面修復に着手。財団のゲストハウスとして甦り、活用されていくことが決まっています。

### 目指したのは「健康な生活」

表の通りから眺めると、まず目を引くのが高い煙突。暖炉はウォーリスが重視していた住宅装置の一つで、人と人との精神的交流の拠りどころになるものとして位置づけられてい



大正2年（1913年）築のウォーターハウス邸。昨年からの改修工事が進められ、この春、記念館・ゲストハウスとして甦った。

財団法人近江兄弟社  
ウォーターハウス記念館  
(ウォーリス建築 1913)

るといいます。この家には一基の煙突と五基のはめ込み式暖炉が設けられており、居間や食堂の炉辺ではウォーターハウス夫人のベッシーを中心に、料理講習会などさまざまな教育・交流活動が行われていました。

窓の破損のほか、照明器具や建具など紛失してしまった部材もいくつかありましたが、別のウォーリス建築の解体・修理時に出た部材を再利用することで「出来る限り、建築当時のようすを復元できるよう留意しました」とはウォーリス記念館館長の藤田宗太郎さん。壁や建具も塗装膜を慎重に剥がし、建築時の色を再現したといいます。

切妻屋根にそびえる煙突は2基あり、室内には5基の暖炉をもつ  
ウォーリスはドアノブ一つも海外から取り寄せた  
採光を考え、窓を大きくとっているのも特長



【ウォーターハウス記念館】  
JR近江八幡駅下車、徒歩約20分  
財団法人近江兄弟社 ウォーリス記念館 TEL.0748-32-2456  
※建物は非公開。敷地内へ無断で立ち入りはできません。ご注意ください。

## 仕事の達人、遊びの達人 私のオフタイム

# 夢は 4WD電気自動車による南極点走破

丸松建設株式会社 松野 和則



東北ステージにドライバーとして参加

4WDが好きで4WDクラブに所属して、オフロード走行を楽しんだり、過酷な条件下でドライビングだけでなく、メカの知識やサバイバル術を競う「アイアン・パール・カップ」に挑戦してきました。そこで知り合った、4WD電気自動車冒険家の鈴木一史さんが取り組む自動車環境問題NGO「ZEEVEX」の活動に関わるようになりまし。

ZEEVEX（ゼロエミッションビークル・エクスペディション・Zero Emission Vehicle Expedition）は、4WD電気自動車に風力発電とソーラーパネルからの電力を充電して、移動のための排出物を出さない方法で南極点に到達するという目標を掲げて活動を行っています。

エンジンの代わりに電気モーターを乗せ替えた「プラグイン・ハイブリッド」と呼ばれる世界初の前後ウインチ付き電動4WD「Suzuki」号を2000年に製作、その車で日本列島を縦断する国内アタックが進められています。

一昨年5月に北海道の宗谷岬を出発してから、100名ほどのメンバーの中から有志が、仕事をやりくりして交替で運転を担当したり、充電させてもらえる場所を探したりという活動を行っています。一昨年の夏に、東北ステージの一関・仙台間にドライバーとして参加、昨年の関西ステージでは充電場所の手配など、休日を利用して活動をサポートしてきました。



エコステーションにて充電中 今年2月には中国ステージに参加

国内アタックはようやく終盤に近づき、順調にいけば5月中旬に目的地の鹿児島県の佐多岬に到着する予定です。1回の充電で走行できるのは25〜35キロ、1日平均80キロ。道の駅やディーラーに充電をお願いすることもありますが、ほとんどは一般家庭。家庭用電源からの充電には2〜4時間かかりますが、私たちの取り組みを、多くの人々に知ってもらおうという意味合いもあります。

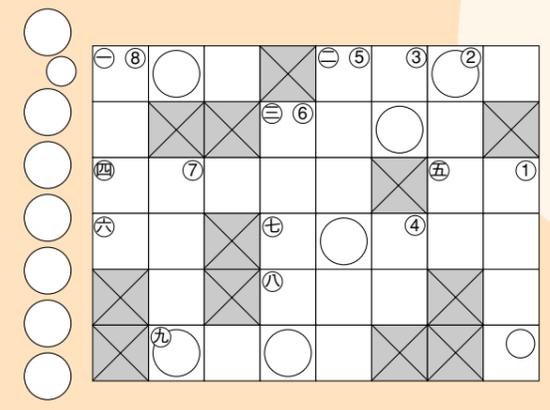
一連の活動を通じて全国に仲間ができて、建設業以外の人たちとの交流の輪が広がりました。仕事で風力発電機を扱うようになったのも、元はと言えば鈴木代表の紹介があったため。大好きな4WDアドベンチャー車を、環境にも配慮しながらこれからも楽しんでいければと思っています。

夢は南極アタックに参加すること。スポンサーを探したいんですが、南極点走破を実現することで、電気自動車の普及や環境保全への啓発につながることをできればと考えています。



過酷な条件にアタックする「アイアン・パール・カップ」

- 3 「ヨ」のかき
- 2 「本日」は晴天なり。たまたま○○○テスト中
- 1 半導体素子の材料
- 二 とりますよ、はいチーズ!
- 三 山形県が一大産地の愛らしい果物
- 四 食物が不足すると心配されること
- 五 癒し系キャラのリラックマ
- 六 黄金と玉のように得難いもの。○○○○糖は
- 七 寒天と砂糖で作る夏向きのお菓子。
- 八 「考える人」などを創ったファミリアの彫刻家
- 九 ○○○に乗る
- 一 タテのかき
- 二 学問を研究する人
- 三 もとになる理由よりどう
- 四 債務者が債権者に定割合で支払う金銭
- 五 「しろかね」とも呼ばれる金属
- 六 屋根まで飛んでこわれて消えたのは?
- 七 遠方の風景が近くに見えたり、空中に浮かんで見えたりする現象
- 八 ワシ目タカ科の猛鳥
- 九 早春に黄色い花を咲かせる落葉小高木



パズル クイズ  
○をつなげて特集に関連のあることを完成してください。  
足りない文字は?

# 見れば納得

見学会報告

今回は、エレベータやエスカレータといった空間移動システムの専門メーカー、フジテック株式会社の「ビッグウイング」を訪れました。

ビッグウイングは、本社、研究開発、生産の各機能を集約して、彦根市に2006年に完成しました。約15万㎡の敷地には2つの工場と、本社・商品開発センター、実験棟、エレベータ研究塔が配置されています。研究・開発と生産部門が1カ所に集まって相互に交流しながら、より良いものづくりを目指しています。



最先端生産拠点となるビッグウイング内の第1工場

工程ごとにセル生産方式が採用されています。



総務部の浅野幸希主任の案内で工場内を見学しました。



**注1** 最初に会社の概要やビッグウイングの施設や設備について紹介していただいた後、第1工場を見学させていただきました。

広大な敷地にゆったりと配置された第1工場と第2工場。大きな工場という、長い製造ラインに乗って、製品が流れ作業で作られていくイメージがありますが、エレベータやエスカレータは、設置する建物に合わせて受注生産となるため、板金の切断や打ち抜き、曲げ以外は、すべて各仕様ごとに組み立てられています。

制御盤、開閉装置、モーター、人が乗り込むかごなど、各工程ごとに組み立て加工から検査までを一人の作業者が行うセル生産方式が採用されています。

**注2** それぞれの部署には作業内容を示す標



担当者の名前やメッセージを書いたプレートが掲げられています。

**注3** 環境対策

工場内にはエアコンが設置されています。夏場は、天井にめぐらせたパイプの中に冷水を通して室内の温度を下げています。冬期は、出入り口の扉の開閉をできるだけ少なくして、機械と人の動きが発する熱を閉じ込めて暖かさを保っています。

部署ごとに独立して作業を行っています。1日2回ミーティングを行ったり、リーダーが工場内をまわって全体の仕事の流れを把握することで、スムーズに全工程の作業が進むように工夫されています。

材料となる鋼板は、2種類の証明書で成分や生産履歴が管理されている。



**注4** それぞれの部署で製造されたパーツは、工程で検査を行い、パーツ単位で出荷されます。立会い検査を要望されたお客様の商品については、出荷前に工場内に設けられた検査展示室に集められます。出荷前に仮組みして、顧客の立ち会いのもとに最終的な意匠などをチェックしたり、制御盤などのテストを行った後、解体して納入先へ運んで、再び組み立てます。

**注5** トレーサビリティ

エレベータの主材料となる鋼板には、その成分や性能がわかる2種類の証明書が付けられています。バーコードで生産履歴などのトレーサビリティを確認することができます。月に1度社内で行う引っぱり試験などの検査を行うほか、6カ月に1度第三者機関に試験を依頼することで、品質管理を徹底しています。

## フジテック株式会社の『ここに注目!』

シヨールームには、機械室のないマシンルームエレベータ「X10R(エクシオール)」のモデルが8台展示されています。

安全性に高い関心が集まっていますが、同社では赤外線センサーを使って、ドアに挟まれたり衝突したりしないよう閉まりかけた扉が反転したり、手や衣服が引き込まれる

のを防いだりするほか、かご内の様子を乗場で確認できるモニターなど、安全面にさまざまな工夫が施されています。

その他、省エネ・長寿命のLED照明や除菌イオン発生装置、ウッド調のかごなど、トレンドとなる最新技術もいろいろ取り入れられています。

真下がのぞけるように床の一部にはめ込まれた強化ガラス



**注6** スカイロビー

続いて一行はビッグウイングのシンボルとも言える高さ170メートルのエレベータ研究塔へ。研究施設としては世界最大級の高さと規模を誇るもので、超高層用と中層用の2つのタワーには、合わせて13基のエレベータが設置されています。

毎分600メートルという超高速で上昇するエレベータで150メートルの高さにあるスカイロビーへ。かごの中は「光の砂時計」というテーマで、床、壁、天井の照明がエレベータの動きに合わせて変化します。

眼下に広がる琵琶湖から対岸の比叡や比良の山々まで、遮るものないスカイロビーからの眺望はまさに絶景でした。

スカイロビーの床の一部に透明の強化ガラスがはめ込まれていて、真下がのぞけるようになっていきます。まさに目のくらむような光景に地上150メートルを実感！

## 見れば納得～見学会報告



170メートルのエレベータ研究塔



隣地では「滋賀総合物流センター」の貨物ターミナルの建設が進められています。

これからのエレベータがどのように進化していくかについてうかがうと、安全性や快適性をさらに追求しながら、空間をより有効に利用する技術が研究課題になるという説明がありました。

広い緑地が設けられた、自然と調和した快適なオフィス環境で、日々新しい技術や商品の開発が進められています。

国内はもとより、アジアを始めとする世界各国で高い納入実績を誇っている同社。滋賀から世界へ、確かなものづくりでさらに大きく羽ばたいてほしいという期待を胸にビッグウイングを後にしました。



見学の後、生産システムの工夫や技術者の育成などについてお話をうかがいました。



スカイロビーへつながる研究塔の超高速エレベータ

# 元気( ^▽^ )いただきます!

建設業を選んだのは「ものづくりが好きだったから」「後の世に残るものを造りたかったから」「デスクワークが苦手だったから」…動機は人さまざまですが、みなさんが共通して口にするのは、「しんどくても夢があるからやってみよう」ということばです。今回も夢に向かってがんばっているみなさんから元気をいただきました。

\*「建設産業人材確保・育成推進協議会作文コンクール」の入賞者の中から4名にインタビューしました。

## 子どもの頃の夢を実現するために、毎日がんばっています。

阿久根 健吾さん [西村建設株式会社]

思えば子どもの頃に、「いつか自分の思いどおりの家を建ててみたい」と考えたことが、建設業を志すきっかけになりました。

建設専門学校では、CADを使って図面を描いたり、構造、施工などの知識を学びました。しかし、実際に建設現場に出てみると、学校で習ったことはほとんど役に立たず、どう動いたらいいのか戸惑うばかりでした。

職人さんから怒られて落ちこんだこともあります。「気遣い」「気配り」の大切さを教えられて、まず「あいさつをしっかりする」ことから心がけました。

さまざまな業種の人たちが働きやすいように、前もって準備をすることの大切さを実感して、整理整頓もまず自分が率先して動くようにしました。

少しずつ仕事を任せられるようになり、仕事の流れもわかるようになると、自分が関わっている工事が、だんだんできあがっていくことに喜びを感じる余裕も生まれました。

当面の目標は、今年行われる2級建築士試験に合格することです。そのために、休日返上で学校に通って勉強しています。

将来の夢は、自分で図面を描いて自宅を建てること。子どもの頃に描いていた夢を実現するために、日々の仕事に真剣に取り組んでいます。



## お客様の「ありがとう」ということばで、苦勞が吹き飛びました。

田中 俊文さん [三陽建設株式会社]

大工として働く父の姿を見て育ち、小さい頃から「将来何になりたい?」と訊かれると「建築士」と答えていました。

工業高校の建築科を卒業後、建設会社に就職して、いきなり大きな工事の現場に配属されましたが、右も左もわからないことばかりで、何もできない自分に無力感を感じました。

初めは人間関係の難しさに戸惑い、ベテランの職人さんから叱られることも度々ありましたが、工事が完成した時に、お施主様から「本当にいいものを建ててくれてありがとう」と言われたことで、苦勞が吹き飛びました。

それから、さまざまな工事に携わっていく中で、現場でどう動けばいいか、職人さんたちに気持ちよく仕事をしてもらうために何をすればいいか、少しずつ経験を重ねながら自分の知識が生かせるようになりました。

とはいえ現場監督の仕事は決して楽なものではありません。ずっと仕事を続けてこれたのは、無事工事を終えた時の達成感や、お客様に喜んでいただきたという思い、そして将来の目標となる先輩や、自分を支えてくれる人々の存在があったからだと思います。

現場監督という仕事に誇りを持ち、1級施工管理技士と1級建築士の資格取得という夢に少しでも近づけるよう、これからも毎日がんばっていきたくと思っています。



## 仕事を楽しく続けるために目標と探究心が必要です。

多賀 公一さん [株式会社奥田工務店]

幼い頃から絵や工作が好きで、芸術家になることを夢見ていました。成長してからは、自分が関わった構造物で地域活性化に役立ちたいという思いを胸に、建築学科への進学を決意しました。

夢を抱いて飛び込んだ建設業ですが、実際に現場に出てみると何をすればいいかわからない状況に茫然となりました。知識だけでなく、身体を動かして仕事を覚えたり、工程を考えたりする下積みを経験する中から、次第に工事の流れを把握して、業者に適切な指示が出せるようになりました。

入社2年目の後半くらいから、小さな現場を任せられるようになり、うれしさの反面、一現場員から代理人になった重圧感を実感しました。

昨年、手がけた料理店の工事は、鉄骨の上に木造仕上げを施す工事で、初めて経験するものでした。資料を読んだり、大工さんに尋ねたり、かなり勉強したおかげで、お施主さんから「すごいものができた」と言ってくれたことが嬉しかったです。

下積み時代は確かに厳しいですが、それを乗り越えなければ仕事の楽しさはわかりません。建設業はもちろんです、どんな仕事でも、まず続けていくことが大切だと思います。続けるためには、目標や探究心を持って仕事に臨むことが必要です。

一人でも多くの仲間たちといっしょに建設業を盛り上げ、地域の活性化に取り組んでいきたいと思っています。



## 大きな夢もがんばればきっとかなうと思います。

松尾 勇作さん [株式会社笹川組]

小さい頃からものづくりが好きで、建設業を志したのは「夢はでっかく」「作るなら建物」と思ったからです。

実際の建築現場の仕事は、学生の頃に思い描いていたものと異なり、暑い日も寒い日も現場に出て働き、夜は事務所で遅くまで書類整理と、仕事の厳しさを実感しました。

けれども現場を経験する中から、さまざまな業種の人々とうまく意思疎通を図りながら一つの物ができあがっていく、建設の仕事におもしろさを感じるようになりました。それだけに、職人さんとの日々のやりとり、コミュニケーションを大切にしています。

入社してから3年、ハードな仕事をこなしてこられたのは、大きな夢があったからです。少しずつ経験を重ねて、もっと規模の大きな工事に携わってみたいと思っています。

それから、1級建築士資格を取って、将来は自分の事務所を持ちたいと考えています。建築学校時代、自分の事務所を開いて1級建築士・インテリアプランナーとして活躍しておられる先生がいて、自分もそのようになりたいとずっと憧れていました。

建設業界の現状は厳しいですが、みんなで力を合わせて1つのものを創る喜びがあること、自分の造ったものが長く残って社会に役立つことも魅力です。そして頑張れば夢をかなえることのできる仕事だと思います。



元気いただきます!

V O I C E

読者の声

- ◆フォトコンテスト第二部、どれもすばらしい写真で、滋賀の良さを再認識させていただきました。「おいしがうれしが」良かったです。(浅井隆博さん)
- ◆偶然ですが、地産地消を考える集いで、料理コンテストに出場させてもらった記事が載っていて、親しみを感じました。(辻 光佐子さん)
- ◆近江建築探訪で紹介されていた橋梁を通して、日本一の焼きものの里「信楽」にぜひ一度行ってみたいと思います。(西川幸子さん)
- ◆フォトコンテストでいろんな人々の写真を見ると勉強になります。もっと視る目を広げてまた応募したいと思います。(三須小夜子さん)
- ◆「うまいもの紀行」を読んで、「へーこんな料理があったとは」とびっくりし、勉強になりました。(森田輝夫さん)

- ◆黒壁の街づくり、行政に頼らない街の人の熱意の表れだと思います。(鍋島道雄さん)
- ◆地産地消はとても考えさせられる内容でした、子どもといっしょに読み、食育の大切さを改めて感じました。(川端みち代さん)
- ◆グランプリの「楽しい水遊び」は子どものむじゃきさが伝わり、子どもの頃に帰ったようにほのぼのしました。(前田かおりさん)
- ◆草津市でも環境に配慮した農産物や草津メロンの生産販売が行われていて、地元の食が再発見されています。(駒井敏男さん)
- ◆滋賀の素晴らしい自然環境を大切にしながら、次代へ送る大きな役割があると思います。(今若喜一郎さん)

パズル&クイズ当選者

- |         |         |
|---------|---------|
| 吉岡 節子さん | 曾碩 和彦さん |
| 辻 能里子さん | 土川八重子さん |
| 山元 聡さん  | 三谷ちよ江さん |
| 宇野 里美さん | 多田 真末さん |
| 小林 亨子さん | 鍋島 道雄さん |

前号の答え ちさんちしょう(地産地消)

応募方法

- P&Q及びアンケート(返信用添付ハガキ)の両方にお答えいただいた方の中から抽選により粗品を進呈します。ふるってご応募ください。
- 別のハガキにてご応募の方も住所、勤務先(学校名)、氏名及びP&Qの答え、アンケート、メッセージ等を書いて送付してください。
- 締め切り 平成21年6月20日必着
- あて先 〒520-0801 大津市におの浜一丁目1-18 (社)滋賀県建設業協会 広報委員会

けんせつ家族



After Word 編集後記

リーマンショック以降、一瞬にして空前の好景気が未曾有の大不況となり、大激変に全国民が不安と憤りの日々を過ごしています。先日、ある人に「大激変の時代と言われていますが、あなたの会社はどう変革されましたか?」と問われ、私は返す言葉がありませんでした。

オーストリアの経済学者シュンペーターは、「企業の行く不断のイノベーション(革新)が経済を変動させる」という理論を発表しました。それは「革新とは創造的破壊である」というものでした。

過去、不況は技術革新によって克服してきたのです。…では、建設業はどう構造革新をしたのでしょうか?自爆テロの様な破壊活動は表われていますが、不易流行にのっつた創造的破壊に積極的に取り組んでいるのか?疑問が残ります。

今、建設業協会では地域住民に近い存在となるために、防災活動や社会貢献(CSR)活動に対して、持てる資源を活かし、汗をかき、知恵を使い、地域住民目線に立って迅速に行動できる体制づくりをしています。

「客(地域住民)を生かしてこそ、己(建設業者)の生きる道あり」と近江商人の言葉にもある様に、地域の安心・安全の一翼を担える「力持ちのおっちゃん」として、再度、地域と共に生きる建設業協会になりたいものです。

皆さんは料理をされるでしょうか。私は料理大好き。料理の本を見て作ったり、人に聞いて作ったりだが、レシピ通りではない。

自分流にアレンジする。さじ加減する。食べられないかと言うとそうでもない。まずまずの出来である。ホテルや外食屋さんの画一的な味よりましである。

さて、土木の世界では、画一的と言えば、私の中では、設計上の土砂(土質)の取り扱い方(切り取り方)。

例えば、これでは、崩れるなど思う土砂でも図面通り上から下まで、百点満点に近い切り方をして、さぞかし写真写りも宜しかろう。その後は、例にもれず崩れてやり直し。現場の土質は均一ではない。施工される技術者の皆さん、自分流にアレンジして、安全と利益を追求して下さい。

料理も工事も一工夫で一段上の出来栄!

N.T



五個荘の街並(左)と、商工会女性部がイベント向けに用意する「てんびんご膳」

「泥亀汁」

天びん棒を担いで諸国をまわり、財を成した近江商人。主人が留守の本宅を守る家族は質素節約を旨とし、普段の食事は米と野菜を中心に始末を徹底しましたが、その中にも旬の食材を取り入れ、家族や使用人の健康を考えたまざまな工夫が凝らされていました。

近江商人の家庭には、黄飯(クチナシご飯)や丁字麩のからしあえなど、数多くの伝統食が伝えられています。「泥亀汁」もそんな商家に伝わる伝統食の一つ。炒りゴマに味噌とご飯を入れてよくすり、水を加えて煮立てた中に、皮の部分に亀の甲羅のような格子状の切り目を入れたナスを入れた味噌汁です。ゴマで濁った味噌汁が泥のように見えることから「泥亀汁」と呼ばれるようになりました。

温めても冷やしてもおいしく、食の細りがちな夏場でも香ばしいゴマの風味が食欲をそそります。

野菜中心の食生活のエネルギー源として、タンパク質や脂質、カルシウムを多く含むゴマをたっぷり摂ることで夏バテを予防しようと考えられたのではないのでしょうか。



泥亀汁のほか丁字麩のからしあえやごま豆腐など、商家に伝わる伝統食が楽しめる「てんびんご膳」



「ぶらっと五個荘まちあるき」で販売されるレトルトパック入りの泥亀汁

「ぶらっと五個荘まちあるき」で泥亀汁を販売

五個荘商工会では、郷土料理を現代風にアレンジして再現した泥亀汁のレトルトパックを開発しました。9月23日に開催されるイベント「ぶらっと五個荘まちあるき」で販売される予定です。

またこの日、商工会女性部では、泥亀汁のほか、丁字麩のからしあえやごま豆腐、あゆとえび豆の佃煮など、近江商人の食事を再現した「ごかのしょうてんびんご膳」を限定100食販売します。

問い合わせ 五個荘商工会 TEL.0748-48-4866  
http://www.eonet.net.jp/~goshoko/

湖国の祭りあれこれ

「水口曳山祭」

4月19日、20日  
水口神社(甲賀市)

水口の地を拓いた祖神「大水口宿禰命(おみなくちすくねのみこと)」を祀り、地元では「大宮さん」と呼ばれて崇敬を集める水口神社の例大祭。県の無形民俗文化財に指定されています。

東海道の宿場町として栄えた水口の町衆によって、祭りに曳山が登場したのは享保二〇年(七三五年)のことで、最盛期には三〇基もの曳山が巡行してにぎわいました。

水口の曳山は「二層露天四輪構造の作り山」と呼ばれる複雑な木組み構造で、華やかな幕を飾り、屋上には「タン」と呼ばれる人形などの飾り物が載せられます。現在伝えられている十六基のうち、毎年六基ほどが巡行するのになっています。

十九日には宵宮祭が行われ、各町内では曳山に提灯を飾りにぎやかに宵宮ばやしを奏でて祭り気分を盛り上げます。

二〇日の朝、町内を出発した曳山と纏田楽(まといでんがく)が、勇壮な水口ばやしにのって巡行し水口神社に集まります。氏子古式祭などの神事後、神輿渡御があり、夕刻には提灯に灯をともし各町内へと戻っていく「帰山」が行われ、幻想的な光景の中で祭りの幕が下ろされます。

甲賀市水口歴史民俗資料館では、十六基のうちの二基を毎年交替で展示しています。



アクセス●近江鉄道「水口城南駅」下車、または新名神高速道路甲南ICから車で約10分  
問い合わせ●水口町観光協会 TEL 0748-65-0708 http://www.minakuchi-kanko.gr.jp/



社団法人 滋賀県建設業協会  
[www.yumeken.or.jp](http://www.yumeken.or.jp)

